

山下ふ頭再開発検討委員会（11月開催）後に インターネットフォームに寄せられた市民意見等について

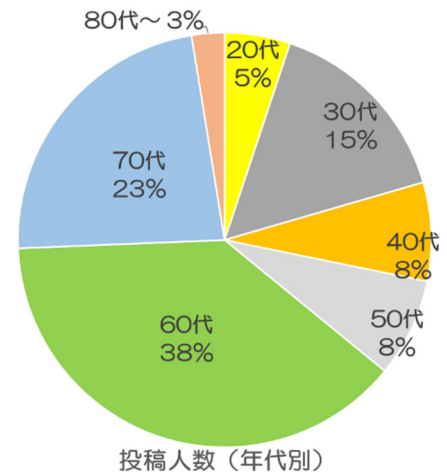
1 受付期間

令和5年11月30日から令和6年1月8日まで

2 意見数

市民意見等は**39名から105件の御意見**をいただきました。

※山下ふ頭再開発に関連しない御意見等は、投稿数から除外
しています。



3 御意見の主な内訳

(1) まちづくりの方向性・導入機能等に関する御意見

○まちづくりの方向性

- ・みなとみらい地区との差別化を図るため、**山手・元町・中華街の持つ歴史や文化を活用して、陸側とのつながり**を意識すべき
- ・**脱炭素・省エネが必須**になるという学識者委員の主張は必要事項として議論すべき
- ・横浜のまちづくりの歴史を委員会で共有し、先人の業績に学び、**未来の市民にも誇れる都市づくり**
- ・人口減少を前提に考え、**文化的で落ち着いた街の魅力で集客力を発揮**できる街を目指すべき
- ・新しい事を受け入れ、いま横浜で生まれている**ハマッ子に未来を任せられる開発**となるよう議論をスタートしてほしい
- ・日常はスポーツやイベント等に利用し、火災や地震などの**大規模災害発生時には、海や空からのアクセスが可能な防災拠点**としても活用できる機能の検討が必要
- ・未来世代にも開発余地を残すため、20～30年かけて**段階的・継続的に成長できる開発**の視点も必要
- ・日本の港、横浜港、山下ふ頭の立ち位置を踏まえた**港と結びつける開発**が重要
- ・ベイブリッジを経由する高速道路を使用すれば**羽田空港から短時間でアクセス**できるので、それを活かした開発を検討すべき
- ・他の政令都市に比べて昼間人口比が少ないため、**昼夜間人口のバランスが取れるまちづくり** など

○導入機能

- ・他の観光地との差別化を図るアイデアとして、**鹿鳴館時代の衣装等で町ブラ**ができる魅力的な空間
- ・市民を増やすため、子ども専用のサッカー場や野球場、屋内競技施設など、**子どもたちが繰り返し来たいと思わせる施設**
- ・みなとみらいの眺望など**横浜港が一望**できる飲食店や入浴施設、イベント会場などの**集客施設**
- ・これからの子どもたちと世界のファンに多様な刺激を与えるため、**アニメ、ゲーム、マンガなどの日本の文化を発信する大型施設**

- ・戦争や震災の痛ましさを語り継ぐ場所がないため、ピースメッセンジャー都市にふさわしい**命の大切さ**や**世界の人が平和について語り合うことができる施設**
- ・**脱炭素社会**に向けて、都市の中心部である山下ふ頭に**まとまった樹林地**
- ・アクセスを向上させるため、水上交通やフェリーなどの**海上交通拠点**やバス、タクシー、LRT等の**陸上交通拠点**を設置
- ・みなとみらいとは違ったランドスケープにするため、**市民の憩いの広場**
- ・地球環境保護や海洋都市横浜の振興を目的に、観光客誘致のための**海洋哺乳類を中心とした水族館**など

(2) 地域関係団体や市民の参加に関する御意見

- ・地域関係団体委員についての6団体は**適切な選択**
- ・経済界に限ることなく、地域住民の代表も含めて、**広範な領域からの人選**を考えるべき
- ・様々な分野から、**地元で活動している団体の声や市民団体の提案等の声を聞くべき**
- ・前回学識者会合後の**市民意見等が資料として提供されたことは評価**。今後も継続すべき
- ・委員の皆さんに**市民意見等に目を通したうえで会議に臨むことを要望**
- ・市民の意見を取り入れるには、**市民が主導する市民会議、区民会議を開催することなどが必要** など

(3) その他の御感想等

- ・**自然とコミュニティが共生する都市**づくりこそが、横浜の目指すべき都市づくりにという意見に同意
- ・**新しい価値観を尊重し、未来の世代のために再開発**をすることが重要
- ・優れた知見に基づく**プレゼンテーションは視聴し甲斐があり、委員間のやりとりも面白い**
- ・学識者3名の**プレゼンテーションは非常に興味深い内容**だった
- ・委員長の報告と3人の委員からの**プレゼンテーションはいずれも聞き応えがあった**
- ・委員会に関する**意見募集等をもっと目立つように広報**すべき
- ・市全域の広域戦略が必要なので、**市庁横断で総合調整組織が設けられるべき**
- ・大阪万博の工事の遅れなどを考慮すると、**供用期限を決めて開発を急ぐべきではない**
- ・山下ふ頭をどうするかは**住民投票で決めるべき**
- ・実際に**供用開始する頃のメインの世代の意見を取り入れるべき**
- ・計画が**特定の企業や組織だけが得をするものにならないようにすべき**
- ・委員会では「**横浜目線**」で話をしてもらいたい
- ・**ノースドックが存在する問題**からも逃げずに積極的に取り上げてもらいたい
- ・「**都心臨海部再生マスタープラン**」を再検討すべき対象として扱うべき
- ・**IRの導入が否定されている事を認識**したうえで話をしてもらいたい など

※御投稿いただいた文章をわかりやすく簡潔な表現とするため、一部修正を行っています

インターネットに寄せられた投稿一覧

居住	年代	投稿 (500文字まで)
1 泉区	50歳代	現在の日本の港、横浜港、山下ふ頭の立ち位置が詳しく説明され、理解が深まり、港と結びつける開発が重要と認識した。学識経験者3名のプレゼンテーションもそれぞれの視点から説明されて非常に興味深い内容であった。地域団体委員については新聞報道で挙がっている地元6団体については適切な選択と思います。
2 港南区	20歳代	運営に港湾の協会、〇〇の〇〇が入ってるのは公平性にかける。
3 港北区	60歳代	次の会議からは、地域関係団体の委員が参加することに決まったとのことであるが、この決定は、寺島委員長の差配する議事終了後に、事務局から事務報告として伝えられていたことに過ぎない。その場で傍聴していたにも拘らず、不覚にも事実を翌日の新聞報道によって認識するという、市当局による目眩ましの抜け駆けに驚くばかりである。この件は、委員長をはじめ全ての委員にとっても寝耳に水であったに違いなく、もとより市と委員とがやりとりする場面はなく、委員からの問い掛けなども無かった。市に問い合わせたところ、条例により、委員会の人選については市長に権限があり、何の問題はないとの回答があり、しかも、回答した職員は、前回会議の「議論を踏まえた」ものだと認識を示した。しかし、「議論を踏まえた」というなら、市当局の決定とは異なる判断となることは、議事録を素直に読むならば明白である。(続く)
4 港北区	60歳代	(承前) 第一回委員会では、北山委員と涌井委員が、地域関係団体委員の早期参加に慎重な意見を述べ、これに寺島委員長も、一案として、「ある段階でまとまった形をもって、仮に10分ずつとかですね、この方向付けについてきちっと意見を言ってもらってという機会を設ける」と応じた上で、「行政の方でもって、今日の意見を踏まえてですね、調整していただければ、だいたい見えてくるんじゃないかなと思いますけど、いかがでしょうか。」と結んでいる。市当局は、委員任命の権限を盾に委員会の意向を軽視して独断専行したと言わざるを得ない。誠に遺憾である。第一回委員会終了後に市民から寄せられた意見を見ても、地元の参加を要望する意見が多数とは言い難い。北山、涌井両委員の見解を支持する意見も多くあり、賛否両論が市民意見と言える。当局の決定を市民が支持したとはとても言えるものではない。市は、この検討委員会の運営について、再三再四、「透明性の高い運営を行います」を謳っているが、市民はもとより、委員が出し抜かれたと思ってもおかしくないような進め方が為されたことは、市民の市への信頼を失わせるに十分であり極めて残念である。(続)
5 港北区	60歳代	(承前) 報道に依れば、会議後に、寺島委員長が「自分たちの利害のための発言は看過しない」との留保を付けて容認したようであり、市の決定が覆るのは難しいのであろうが、参加予定の地域関係団体は全て経済関係の団体である。行政は経営とは違うのだから、そして、再開発と言っても経済主導とは限らないのだから、地元の意見を聞くと称して経済界の人間に偏った人選が行われるなら、初手からして、市は再開発で金儲けを目論む算段だと色眼鏡で見られてしまう虞があろう。経済界に限ることなく、地域住民の代表も含めて、広範な領域からの人選を考えるべきである。今回の会議での寺島委員長と3人の委員による、優れた知見に基づく、大所高所からのプレゼンテーションは、なかなか視聴し甲斐があり、委員間の遣り取りも面白く、前回に涌井委員が言っていた「スタディー」の趣の討議が展開されている。このような格調の高い議論を継続する中から紡ぎ出されてくる再開発の方向性と付加価値の提示に一定程度の目鼻が付いてから、その次に「方向付けについて」地域の意見表明を求めるという手順をどうして踏めないのか。市の拙速な判断の拙劣さには呆れるばかりである。
6 港北区	60歳代	市のホームページ上で「広報・広聴・報道」から「各区局の記者発表」に移っても、この委員会に関する意見募集を知ることはできない。一定程度の関心のある市民以外には、容易に辿り着けない意見募集である。広く市民の意見を求めるという姿勢とは裏腹に、むしろ隠し立てして事を進めるような消極的な知らせ方ではあるまいか。残念至極である。今からでも遅くないので、もっと目立つような告知をして頂きたいものである。

インターネットに寄せられた投稿一覧

居住	年代	投稿 (500文字まで)
7 港北区	60歳代	寺島委員長の報告と3人の委員からのプレゼンテーションはいずれも聞き応えがあった。共通していたのは、現在が文明の転換点にあるとの認識の下、「社会的大変容」の渦中であって、今度の山下埠頭再開発が、これまで行われてきた短期的な経済効率を重視した経済一辺倒の開発とは一線を画すものでなければならないとの見解であった。涌井委員のプレゼンテーションでは、「段階的整備」の概念に注目したい。ミレニアム世代、Z世代が社会で主力を担う20年先を見据えての構想を語る中で、「環境価値」と「感性価値」を基軸に据えた提案が面白かった。「エシカル(倫理的)ライフスタイル」への訴求、「爆発的エネルギー」の導入は、必須の要素と了解した。「段階的」開発となれば、これから生を享ける未来世代にも手渡せると同時に、未来世代が手を入れられる余地も残しておく必要があるだろう。幾世代にも亘って継続的に手を入れていく「現代版里山」の一角を確保していく必要があるのではないかな。
8 港北区	60歳代	建築家にして都市デザインの専門家である北山委員のプレゼンテーションでのキーワードは、「反転するアーバニズム」に立脚した「都市モデル」づくり、と捉えたい。資本の活動とは切り離された「自然とコミュニティとの共生」を掲げ、「これから生まれてくる未来の人のための」都市構想によって、未来の横浜「市民のための固有の文化を表現」したい、と語る北山氏の熱い思いに共感を覚えること頻りであった。また、防災面からも、水運を中心とした都市構造に触れ、羽田空港と連携した海上交通網に言及している点にも注目したい。北山委員には、別に、山下埠頭再開発を港湾局だけの管轄ではなく都市整備局にも関与させるべきとの趣旨の発言があった。全く同感である。涌井委員の指摘にもあったように、山下埠頭再開発に当たっては、横浜市全域に関わる広域戦略が求められるのであるから、市庁横断的な、それこそ市長直轄の総合的、俯瞰的、調整的な組織が本答申の受け皿として相応しい筈である。
9 港北区	60歳代	村木委員のプレゼンテーションでは、山下埠頭再開発が脱炭素の都市再生プロジェクトとして為されねばならないことが説得力をもって語られていた。何代も遅れている日本のエネルギーネットワークの失地回復に繋がるようなものが求められることに異論を差し挟む余地はない。寺島委員長が「脱炭素」に加えて「レジリエンス(回復力、耐久力)」を二大論点として挙げていたことにも共感できる。さらに、委員長がまたしても言及した「市民参画」には大いに注目していきたい。このプロジェクトが「上から目線で」与えられたものではなく、「市民参画」のできるようなものを「意図」したい、との委員長の発言内容が日の目を見るように、市民側からの働きを強めていきたいところである。
10 中区	30歳代	話が進んでいない。事業者からの提案を集めたのでようやく具体的な開発内容の検討に入るのかと思ったがまた話がリセットされている。市長や委員の自己満足ではなくまず検討ロードマップを市民に対して一刻も早く提示し、その期間内で必要な議論を過不足なく行うようにしてください。
11 中区	30歳代	・海の方ばかりではなく陸側とのつながりをもっと意識してほしい ・山手・元町・中華街というみなとみらい21にはない文化的バックグラウンドを活用して差別化を図ってほしい ・鉄道ではみなとみらい21より奥になってしまうが、高速道路ではベイブリッジ経由でより羽田に近いことを活用してほしい
12 中区	30歳代	・広さを活用して20-30年かけて成長させるまちづくりをすると思う ・みなとみらい21のように空き地を長期間放置せず、GUNDAM FACTORYのような定期的貸出ができるとよさそう ・昼間人口・夜間人口のバランスを取ってほしい ・あかいくつ・ベイサイドブルー・シーバスなどの交通手段を十分整備してほしい
13 青葉区	50歳代	昨今の資材・人件費の高騰、大阪万博の工事の遅れを考慮すると、供用化の期限を決めて開発を急ぐべきではないと思います。まずは、広域避難場所にもなる緑地を整備し、その後、徐々に、周辺に賑わいを作る施設を、時代のニーズに合わせて建設していく方がよいと、委員会の皆様のお話を伺っても感じました。他の観光地との差別化を図るアイデアとしては、鹿鳴館時代のドレスや、カフェの女給さん、シルクハットとフロックコートなどの衣装で町ブラができ、写真映えするスポットがあると良いと思います。

インターネットに寄せられた投稿一覧

	居住	年代	投稿 (500文字まで)
14	青葉区	20歳代	横浜港周辺には、大人が散策するための景観の良い公園は多数ありますが、子供を無料で遊ばせられる、遊具の充実した公園がありません。また、厚生労働省は、児童館の中高生の居場所としての機能を強化する方針を示しており、東京都世田谷区や江東区では、既に中高生の児童館利用に取り組んでいるようですが、横浜市内の子育て拠点は、小さな子供向けのものばかりです。そこで、山下ふ頭には、遊具のある広い公園と、そこに併設する、小さな子供から中高生まで幅広く活動し、また、一人でもくつろげる児童館を要望します。
15	旭区	30歳代	ぜひとも山下埠頭にアニメ・ゲーム・マンガ文化の施設を開発誘致してほしい。先般みなとみらいにて実施されたポケモンカードゲーム大会、日本や海外から絶大な人気があったと聞きました。現在山下埠頭に仮設置してある18mの動くガンダムは海外からの日本への旅行先検索アクセスランキングで1位を獲得したと聞きます。新高島にはアンパンマンミュージアムもあります。少し足を延ばした鎌倉には、中国で大人気のスラムダンクのモデルの地もあります。これほどまでに日本を含めた世界中のアニメ・ゲーム・マンガファンから注目を浴びる施設があり、高速道路も空港も目と鼻の先な好条件立地は山下埠頭しかありません。私はこの横浜で生まれ住み、日本の文化で育った2児の子を持つ市民です。上記のような施設があること誇りに思い、週末は助かっております。これからの子供たちに多様な刺激と世界のファンのためにも山下埠頭に日本文化の大型施設を検討いただきたい。
16	港北区	60歳代	幸田委員が、平成27年2月に出され、この検討委員会で既往計画」として示されている「都心臨海部再生マスタープラン」について言及していたが、この発言の趣旨は至極真っ当であると評価したい。委員の間で若干の行き違いがあったが、会議中には誤解は解けたようである。幸田委員は「都心臨海部再生マスタープラン」が「カジノ導入のための前捌き」と指摘した。これは本当の事で、当該文書の34ページに、「IR(統合型リゾート)とは、カジノ施設及び会議場施設、宿泊施設、大規模集客施設その他の観光の振興に寄与すると認められる施設が一体となっている施設を指します。」という注釈付きで、導入施設としてIRカジノが紹介されている。横浜からカジノを撃退したからには、少なくともこの件は当該文書から削除されなくてはならないし、この文言を紡ぎ出してくる「マスタープラン」そのものについても、既往計画としての位置付けの正当性が問われる筈である。(続く)
17	港北区	60歳代	(承前) その点で、北山委員がプレゼンテーションの中で触れていた平成22年3月の「次なる50年 横浜は海都へ ～ 「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」提言書」は、今度の山下埠頭再開発検討に当たって、第一に依拠すべき文書と言えよう。何故ならば、その基本理念が、正に今次打ち立てられるべき理念の先取りであるからである。掲げられている理念は、①人間中心の都市②持続可能な環境③人材・知財を活かす社会④文化芸術創造都市の更なる展開⑤市民社会の実現、と今日的課題に正面から答えるものばかりである。明らかに、カジノを含むIR構想の萌芽が含まれる「横浜市都心臨海部再生マスタープラン」より前の「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」に戻るのが、ポストカジノの山下ふ頭再開発に相応しい振り返りと言える。この文書の取り扱いについて、市当局の英明な判断を期待したいところである。
18	港北区	60歳代	寺島委員長の示したデータは、山下埠頭再開発に当たって、巨視的、鳥瞰的、近未来的視界からの構想力が欠かせないとの見識に見合うものだという事は理解します。ただ、横浜港全体、延いては東京湾内地区全体に関わる港湾機能の再検討に資するデータとしては有意義であっても、既に港湾機能面での大半の価値を失って、都市機能面での活用が期待されている山下埠頭の再開発での検討資料としては相応しくないのではないのでしょうか。むしろ、ここでは、北山委員が示した横浜の都市形成史、とりわけ飛鳥田市政での都市(まち)づくりの歴史を基礎資料、ファクトデータとして委員会全体で共有して欲しいものです。

インターネットに寄せられた投稿一覧

	居住	年代	投稿（500文字まで）
19	港北区	60歳代	寺島委員長が繰り返し言及する「市民参画」とは、いったいどのように具体化されていくものなのか、大いに注目している。よもや地元の地域関係団体からの意見聴取が「市民参画」ではあるまいが、委員会が答申するという山下埠頭再開発の「方向性」と「付加価値」を議論する場に、経済界の地域関係団体と呼ぶのなら、もっと広範な層から種々の団体をも呼ぶのが、「市民参画」の第一歩ではあるだろう。行政は経営とは違ふし、再開発と言っても経済主導とは限らないし、今時、経済成長に囚われる市政運営は時代錯誤なのだから、医療、介護、子育て、教育、芸術、スポーツ等の分野からも地元で活動している団体の声を聞くべきである。さらに、山下埠頭の一角に市民協働の場を要望している市民団体からの提案にも耳を傾けるべきではないか。市民を決して置き去りにしないという、市当局の初心に鑑みて、「開かれた」委員会の運営をして頂きたいものである。
20	中区	70歳代	ハマっ子四代目（その1） 寺島委員長は、山下ふ頭再開発とは無関係なコンテナターミナルに関するプレゼンをしました。この点を荻原課長に指摘したら、「横浜港のファクトとして知ることが重要」と、委員長をかばいました。うんざりして聞いていたので定かではありませんが、山下ふ頭にコンテナが置かれていた事実は話に出なかったと思います。さらに、寺島委員長は第1回会合で、カジノに反対した横浜市民に対して「議論が貧困」と侮辱しました。ですから、寺島委員長主導で検討委員会が進むことを非常に心配しています。このままだと、プロジェクトは100%失敗すると思います。
21	中区	70歳代	ハマっ子四代目（その2） 内田委員は第1回会合と第2回会合で、同じことを繰り返しました。寺島委員長の話を補足するような言葉を並べたのです。ご自分の考えより、委員長との同調を重視するような人が学識者として検討委員会に参加するのは極めて不安です。
22	中区	70歳代	ハマっ子四代目（その3） 調整課の職員の皆さん、ファシリテーターや学識者に任せるのではなく、市民の意見を自ら分析し、市民がどのような開発を望んでいるか理解しましょう。プロジェクトの成否は職員の皆さんが握っているということ認識してください。
23	中区	70歳代	ハマっ子四代目（その4） 私は、令和4年11月～5年2月の意見募集期間中に、独自の構想を凶入りの文書で提案しました。ところが、山下ふ頭再開発調整課は私の構想を公開しませんでした。
24	中区	70歳代	ハマっ子四代目（その5） 投稿フォームには「次のような内容は公表しない」と書かれています。①山下ふ頭の再開発に関連しない事項 ②個人及び団体に関する誹謗中傷意見は無記名なので、公表しないかどうかの判断は担当職員の裁量で下されてしまいます。意見には、自分の考えをうまく表現できない場合、腹立ちで強く言いすぎてしまう場合などがあります。意見の中に問題表現がある場合は、本人に確認するのが公務員の仕事です。
25	中区	70歳代	ハマっ子四代目（その6） 2回の学識者会合を傍聴して、「こりゃだめだ」と思いました。山下ふ頭をどのようにしたいのかがまったく伝わらないからです。委員はレジリエンス、3Cなどの難解な言葉を使うだけで、市民に何が必要かを語りません。さらに、山下ふ頭がある中区がどのようなところかもあまり知らないようです。これは、港湾局の職員も同じです。そもそも、港運開発ではなく街づくりなので、港湾局にその能力があるか疑問です。事務分掌規則には「その他山下ふ頭の再開発に関すること」と書かれています。重要なプロジェクトがその他扱いでいいのでしょうか。
26	中区	70歳代	ハマっ子四代目（その7） スクリーンに映し出されたスライドの内容が細かすぎて、何を示したいのかがまったく分かりませんでした。次回から改善していただけたらと思います。
27	中区	70歳代	ハマっ子四代目（その8） 山下ふ頭再開発検討委員会条例第6条には次のようなことが書かれています。委員長は、委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。そこで、委員長にお願いがあります。その4で示した非公開提案「ダッピロバ と癒しの施設」を委員会でプレゼンしたいのですが、如何でしょうか。
28	中区	70歳代	内田委員が2014年に改訂された港湾計画を取り上げて、「山下ふ頭の利用が港湾機能から賑わいのある都市機能に変わった」と言いました。この発言に対し、幸田委員が異議を唱えました。要約すると、「過去の計画は山中市長が横浜IRを中止にしたときにリセットされている」です。委員の皆様と港湾局は過去の計画が適用されないことを認識すべきです。

インターネットに寄せられた投稿一覧

	居住	年代	投稿（500文字まで）
29	中区	70歳代	ハマっ子四代目（その10） 村木委員はイギリスの例を示して、再開発では脱炭素、省エネが必須になることを強調しました。横浜市はSDGs未来都市なので、港湾局も同じことを考えていると思います。ただ、村木委員が示したのは付加価値ではなく、必要事項です。私としては、寺島委員長が言った付加価値より、村木委員が示した必要事項を議論するほうが良いと思います。たとえば、新市庁舎の電気代は年約4億円で、旧市庁舎の10倍になってしまいました。このような問題を防がなければいけません。
30	中区	50歳代	下記、再開発を提案します。 ①山下埠頭を広大な森林公園（山）にする。山の下に広大な駐車場に。 ②公園の中にキャンプ場（ホテルチックなバンガロー）の設置。手ぶらキャンプ。 ③人工の砂浜（海水浴場）とプール（冬季温水プール） ④みなとみらい側は眺望を生かしたお洒落な飲食店。 ⑤みなとみらい側バックに屋外ライブステージ会場。 ⑥遠方の方のためにホテル設置。 ⑦銭湯（横浜港が一望出来る巨大露天風呂） ⑧横浜港が一望出来る夏季ビアガーデン、冬季屋外こたつ式おでん居酒屋。 ⑨シーバス、シータクシー場、各種イベント船のりば、バス停、タクシーのりば ⑩サッカー場、テニス場、卓球、バトミントン、バスケット等、等スポーツ場
31	中区	70歳代	ハマっ子四代目（その11） 市民意見について書いた「その3」をもう少し補強します。時間をかけて集収した市民意見は学識者に届いていません。ファシリテーターのまとめ方が分かりづらいからです。さらに、検討委員会に対する市民意見も学識者が読むかどうか分かりません。計画案の作成後も市民から意見を募るそうですが、本計画に生かされないと思います。なぜなら、私は2月にもっと簡単な計画プロセスを提案しましたが、港湾局は検討さえしなかったからです。
32	中区	70歳代	ハマっ子四代目（その12） 古い話で恐縮ですが、第1回山下ふ頭再開発検討委員会の学識者会合を傍聴し、「港湾局と山下ふ頭再開発検討委員会の問題」という文書を山下ふ頭再開発調整課に送りました。ところが、調整課は「今回の委員会への提示は文字情報による資料とした」と言って、私の意見を委員にも市民にも見せませんでした。意見書に図や写真が含まれているからです。
33	神奈川 区	40歳代	コストコを是非つくってください！！
34	中区	30歳代	港の競争力強化の検討ではなく、山下ふ頭に何が相応しいかの検討をしてほしいです。委員長の説明では、山下ふ頭に何が必要かにつながるのか示してほしかったです。いまさら日本海の港が物流で盛り上がるわけでもないし、横浜の山下埠頭との関係がわからないままでした。
35	中区	70歳代	ハマっ子四代目（その13） 港湾局が選んだ地域関係団体を以下に示します。 ・ 関内・関外地区活性化協議会 ・ 横浜港振興協会 ・ 横浜商工会議所 ・ 元町エスエス会 ・ 横浜港運協会 ・ 神奈川倉庫協会 6団体の代表が第3回検討委員会から出席するようですが、次の内容を委員会の最初に説明願います。 1. 各団体を選んだ妥当性 2. 第3回検討委員会から出席するようになった経緯 3. 学識者と団体代表の役割の違い 以上、よろしく願います。

インターネットに寄せられた投稿一覧

居住	年代	投稿（500文字まで）
36 中区	70歳代	<p>ハマっ子四代目（その14） 私は「山下ふ頭をどうするかは住民投票で決めるべき」と提案しています。そこで、委員の皆様にお願ひがあります。検討委員会で、「住民投票で決める」ということを答申していただけないでしょうか。今回の件に限らず、いつでも住民投票ができる環境を整備することは非常に重要なことです。</p> <p>2021年1月に住民投票条例案が議会で議論されましたが、自民党の黒川議員は「軽々に市民に判断を委ねるような問題ではない」「素晴らしいIR施設の提案が提出されると、賛成者が増えてしまうと思っているのか」「横浜の依存症対策の詳細が発表されると市民の不安が減るので、その前に住民投票で潰してしまおうというのか」と、乱暴なことを言って反対し、総務局長は「私は民意が得意でない」「金がかかる」と言って、条例案を否定しました。港湾局も住民投票をやりたくないようです。なぜなら、私の提案を公表も検討もしなかったからです。横浜IRの反省がまったくありません。</p>
37 保土ヶ谷区	70歳代	<p>1、「ファクトシートの説明」は、山下ふ頭の「方向性」を検討するうえで、知っておくべき客観的事実を共有するためという趣旨で行われたと思うが、果たして適切なものだったか疑問が残った。港湾局長による「横浜港の国際競争力強化に向けた取組」の説明、それには見落とされている「日本海物流の拡大」「太平洋物流の空洞化」と背景補足などの委員長報告は、知っておくべき事実ではあろう。しかし、それは主として港湾機能に焦点を当てた国際競争力の現状と問題点を示す「ファクトシート」であって、都市機能としての山下ふ頭の「方向性」を議論するうえでは、いささか過不足を感じる。検討委員会には、（横浜港の国際競争力を高めるための）国の産業構造や物流戦略のあり方などの議論まで求められているわけではない。その一方、山下ふ頭の「方向性」を議論するうえで、どうしても共有しておくべきファクトが提示されていない。飛鳥田市政以来の都市づくり構想（6大事業）、とりわけ山下ふ頭を含むインナーハーバー、「都心部強化」事業の都市づくりの歴史と現状、問題点のファクトである。横浜市民として全国に誇れる都市づくりの到達点のファクトである。2につづく</p>
38 保土ヶ谷区	70歳代	<p>この点は、北山委員のプレゼンで相当補足されたものの、本来、事務局の方からきちんと報告されるべきファクトであり、補強報告を求めたい。いま一つ、共有すべきファクトとして、インナーハーバーの「顔」に当たる瑞穂ふ頭の問題がある。瑞穂ふ頭は、戦後78年間も「ノース・ドック」として米軍に接収されたままになっている。さらに今年1月の日米2+2で米揚陸艇部隊の配備が決定、横浜港が戦場になりかねないリスクを負うことになった。山下ふ頭は、米軍が使い勝手のよい瑞穂ふ頭を確保しておくために、「代替ふ頭」としてつくられた経緯がある。瑞穂ふ頭は、山下ふ頭よりも広く（52ヘクタール）、「活力ある横浜の大きなポテンシャル」を有し、行政、市会、市民が一体となって早期全面返還を求めてきた。3につづく</p>
39 保土ヶ谷区	70歳代	<p>2、北山委員のプレゼンは、学生時代から横浜の都市づくりに長くかかわってきた建築家として深く思いのこもった都市デザインについての報告だった。飛鳥田市政以来の都市づくりの歴史を総括するとともに、人口急増から人口急減への文明の転換期に、定常社会へと向かう新しい都市モデルを横浜は目指すべき、その一環としての山下ふ頭のあり方について提言。カジノを止めた市民として大いに共感し、啓発されるものがあつた。第一に共感したのは、横浜は開港以来のいくつもの「断絶」を乗り越えて都市を形成、とりわけ飛鳥田市政以来の6大事業が、50年後の横浜の未来を構想して、拡張拡大する都市を構造化するアイデンティティづくりであったこと、背景には強い自治意識をもって「市民の政府」としての自治体を目指す、都市の運営には短期的ではなく、中長期的な視座が必要との理念があつたと総括された点である。さらにその精神を引き継いで、人口減社会へ転ずる次の50年の都市構想として、芸術文化創造都市、「海都横浜構想2059」2009年がすでに提言されていることも報告された。4につづく</p>

インターネットに寄せられた投稿一覧

居住	年代	投稿 (500文字まで)
40 保土ヶ谷区	70歳代	<p>要するに、これまでの横浜の都市づくりは、市民が大いに誇るべきものであり、それを担った人材が蓄積されていることも判った。山下ふ頭の「方向性」を議論する際には、こうした経験に学び、継承し、これからは活かすことが大事ではないか。そこから離れて「上から目線」「外部から持ち込む」ような議論、短期的な経済一辺倒の議論では、市民の共感と支持は得られないと思う。第二に啓発されたのは、これからの人口急減社会、定常社会に向かう文明の転換期には、新しい都市モデルを目指すべきと提起された点だ。産業革命以来の拡張拡大期の現代都市モデル、とりわけグローバルな資本市場における再開発によってつくられるテーマパーク型都市は世界中どこでも同じような都市風景をもつものになっていると批判。定常型に向かう社会では、都市は資本が活動するだけでなく、自然やコミュニティが共生する、文化や生活の豊かさを求める場になる、という提起は文明の転換期にふさわしく、説得力があった。多くの市民の共感を呼ぶのではないか。 5につづく</p>
41 保土ヶ谷区	70歳代	<p>第三に、そうした構想を踏まえて山下ふ頭のあり方が提言された。「未来の市民のための固有の文化を表現したい」は、もう少し中身を聴きたかった。だが、それは主として市民による山下ふ頭づくりをめざすわれわれ自身の課題であり、一緒に議論し、つくり上げるようにしたいと思う。寺島委員長も言われたように北山委員の横浜の都市づくりについての報告は、ぜひとも各委員に共有していただきたいと思う。それを踏まえて、各委員の知見に基づくプレゼンは、その違いも明確になり、「方向性」についての議論が活性化し、深まるに違いない。そうなれば、市民としても議論が理解しやすくなり、議論に積極的に加わり、市民の意見が反映しやすくなると思った。 6につづく</p>
42 保土ヶ谷区	70歳代	<p>3、涌井委員と村木委員のプレゼンに対する感想と質問。涌井委員のプレゼンの基本的論点「巨視的に考え、段階的に整備する！社会的大変容の渦中にあることを自覚して、不易と流行を巧みに組み合わせた再生戦略を！」は、大資本の短期的な利益の最大化を追求する再開発ではない論点として理解した。村木委員のプレゼンは、ロンドンでの最近の経験に学んで脱炭素型都市再生の「方向性」を提起された。いずれの論点ももっともらしく聴こえた。だが、両委員が飛鳥田市政以来の6大事業、中でも山下ふ頭が位置する都心臨海部の都市づくりの歴史と現状をどのように評価しているか、よくわからなかった。そこで北山委員の総括と比較してどの点が違うのか質問したい。中でも「市民参画」による都市づくりは、引き継ぐべき重要な経験だと思うが、山下ふ頭のまちづくりの「方向性」として確認できるか、どうか。併せて、これから50年後、文明の転換期をどのようなものとして理解しているか、そこにおける都市づくりの「理念」「方向性」をどのように考考えているかについても質問したい。 7につづく</p>
43 保土ヶ谷区	70歳代	<p>4、幸田議員の指摘は極めて重要であった。検討委員会に唯一の「既往計画」として出されていた「都心臨海部再生マスタープラン」(2015年2月)について、「あれはカジノ導入のための『前捌き』であった」という指摘である。幸田委員は、EBPMの手法を用いて横浜市「IR振り返り」でも同様の指摘をされている。この指摘を真摯に受け止めるなら、「都心臨海部再生マスタープラン」を「既往計画」としてではなく、むしろ再検討すべき対象として扱い、削除すべきであろう。それに代わる「既往計画」として、「再生マスタープラン」策定によって棚上げにされていた「次なる50年 横浜は海都へ都心臨海部・インナーハーバー整備構想」提言書2010年を提示すべきである。幸田議員の指摘を無視して議論を進めるとなれば、カジノ誘致の蹉跌を踏んだ根本原因にフタをしたまま、山下ふ頭の再開発を議論することになる。それは、カジノを止めた市民に対する欺瞞を重ねる態度であり、到底納得できない。</p>

インターネットに寄せられた投稿一覧

居住	年代	投稿 (500文字まで)
44 保土ヶ谷区	70歳代	<p>当委員会には、カジノを止めた市民として山下ふ頭のあり方をどうするか特別の関心と 思いをもって傍聴している。今回からは委員によるプレゼンが始まり、実質的な議論に 入った。地方から横浜に来て60年弱、「第二のふるさと」となり、市内に暮らす子ど もと孫をもつ市民の立場から、横浜の未来の都市づくりに参画する意思を込めて感想、 意見を述べたい。 1、第1番目の議題として「前回学識者会合後の市民意見等」が取 り上げられ、「資料3」が提供されたことをまずは評価したい。1回毎に、出された市 民の意見が全文公表され、委員のみならず市民も見ることができ、議題として取り上げ るやり方は、継続していただきたい。 そのうえで、市民の意見がもっと検討委員会の 議論に反映されるようにするために、次の2点を要望したい。 第1に、条例に基づき 検討委員会が開催されていること自体、またその日時や傍聴・動画配信の要領、意見募 集など、市民にもっと周知する広報の仕方を工夫、改善していただきたい。今回開催が 市のホームページに掲載されたのは開催10日前、しかもよほど努力しないと当該ペー ジにたどりつけなかった。運営2につづく</p>
45 保土ヶ谷区	70歳代	<p>運営2 カジノを止めた市民は、これからの横浜の都市づくりにかかわる山下ふ頭のあ り方、その「方向性」をめぐる議論には関心が高く、参画したいと願っている。それは 端的に、検討委員会開催に先立って行われた市民意見募集が1回目3221件、2回目 1284件にのぼり、意見交換会にも221人、172人の老若男女が参加、活発に意 見を述べたことに表れている。ところが、第1回検討委員会に対する市民意見は、39 人78件にとどまった。このギャップは、市民への広報の仕方の問題があることを示し ていないか。広報「よこはま」に条例により検討委員会が開催されており、市民が「感 想・意見を述べることができる」ことなどを掲載する、開催の具体的要領については最 低2週間程度の周知期間をとって広報する、市のホームページでも見やすいところに掲 載するなどを求めたい。 運営3につづく</p>
46 保土ヶ谷区	70歳代	<p>運営3 第2に、言わずもがなではあるが、検討委員会の委員の皆さんには、報告され た「市民意見等」について、きちんと目を通したうえで会議に臨まれるよう、あえて要 望しておきたい。今回から各委員によるプレゼンが始まり、今後議論も交わされてい くことになるが、その際、市民としては自分たちの意見がどのように受け止められ、扱わ れるか、大きな関心をもって注視している。検討委員会にとっては、「市民参画」を重 視しているかどうかの一つの試金石となる。第1回検討委員会に提出された「参考資料 市民や事業者の皆様からいただいたご意見・ご提案のまとめ」にもぜひ、目を通して おいていただきたい。 運営4につづく</p>
47 保土ヶ谷区	70歳代	<p>運営4 2、「地域関係団体」の委員が次回会議から参加する問題が事務局報告によっ て、事実上「決定」されたが、「透明性の高い」会議運営の原則にもとめるもので、強く 抗議する。経過をたどれば、第1回会議では二人の委員から「地域関係団体委員の早期 参加」に対しては慎重意見が出され、事務局に調整が委ねられていた。したがって、委 員会の議題として取り上げ、議論を経て結論を出すのが当然であった。ところが、委員 会には図られず、事務局としてどんな調整努力をしたか何一つ報告もなく、結論だけが 一方的に通告された。委員のなかにも疑問を生じさせ、委員会に対する市民の信頼を損 う誤った運営であった。次回会議では、きちんとした釈明を求めたい。</p>
48 港北区	70歳代	<p>平原氏が2013年4月1日都市整備局長に就任し「都心臨海部再生マスタープラン」が策定 され、幸田委員が『IRカジノの前捌き』の指摘は当該プラン34ページでイラスト入りで 『IRとはカジノ施設』と明確に記述されていますので、マスタープランは『IRカジノの 前捌き』は今後も私達が記憶を呼び戻す為にも将来世代に伝えていきたい、『横浜にカ ジノは要らない』と国策を容認しない市民運動が起きた事を学識経験者は見逃しては駄 目です。そしてなにより北山委員の説明内容を多くの市民により情報共有されることが 大切であることを再度指摘したい。</p> <p>論議の中で欠落してはいけないのは瑞穂埠頭米軍の基地がど真ん中にある現実、米軍 の好き勝手にはさせない国の案件だと放置しては駄目です、戦争は市民自治が損なわれ 安全な港湾都市とは云えません。住んで良かったと実感出来る街、如何に山下埠頭を市 民生活に取り込んでいくか、市民を参画させていくかが学識経験者の皆様に問われてい る課題です。</p>

インターネットに寄せられた投稿一覧

No.	居住	年代	投稿 (500文字まで)
49	西区	60歳代	<p>委員会を動画で拝見して感じたことです。 山下ふ頭の再構成にあたって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に都市（まち）が完成する頃のメインの使い手世代の意見を取り入れる ・みなとみらいとは違ったランドスケープに →広々とした市民の憩いの公園（災害時の拠点にも） ・水上交通は重要 ・ヨコハマブランドの確立（リブランディング） *ヴェネチア・ビエンナーレのような現代アート・建築などの国際展の会場（公園） <p>に →現代アートはインスタレーションなども多く、変化する作品を体験するために世界中から人が集まる *郊外と都市の二拠点居住のモデルを示す（〇〇氏の構想など） *クルーズ船の誘致 →ベイブリッジを通れない巨大船（メガシップ）ではなく、スモールシップと呼ばれるクラス、中でもラグジュアリークルーズのブティック・クラス（1万トンクラス）の寄港地に選ばれる都市に</p> <p>次世代の市民が未来を語る場があってもいいのではないのでしょうか。</p>
50	中区	40歳代	<p>横浜市民として、山下埠頭再開発計画について心からの意見をお伝えしたく書かせていただいております。</p> <p>先般の第2回学識会合を拝見し、既得権益に迎合する風潮が心配されます。山下埠頭は私たち市民の資産であり、その価値を大切に守っていただきたいと切に願っております。</p> <p>何よりも、計画が特定の企業や組織だけが得をするものにならないようお願いいたします。公平かつ誠実な進行を心掛け、市民全体が共感し、利益を享受できるような計画を期待しております。</p> <p>また、学識会合で聞かれた未来志向の声に深く共感しました。新しい価値観を尊重し、未来の世代のために山下埠頭を再開発することが重要です。その中で、山下公園との連続性を感じさせ、一般市民が賑わえる場として再生されることを切に願っております。</p> <p>最後に、100年後も愛され続ける山下埠頭の実現に向けて、皆様のご尽力に深く感謝いたします。誠意をもって計画を進めていただき、市民の期待に応える素晴らしい未来を築いていただければ幸いです。</p> <p>心より、お願い申し上げます。</p> <p>中区山下町在住40歳代</p>
51	中区	70歳代	<p>ハマっ子四代目（その15） 都市の再開発を大別すると、2種類が考えられます。1つは、地上げをしてビルの高さを競う計画です。もう1つは、古くなった建物を撤去して、緑の公園を整備する計画です。前者は業者による金儲けですが、後者は行政による街並みの保全です。横浜市はSDGs未来都市なので、学識者にわざわざ聞かなくても、後者を選ぶのが必然です。ところが、横浜市は旧市庁舎の跡地を三井不動産に渡して、高層ビルの建築を推進しました。行政と業者がグルになって再開発を進めるのを阻止しなければいけません。</p>

インターネットに寄せられた投稿一覧

居住	年代	投稿（500文字まで）
52 鶴見区	60歳代	<p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その1】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ヨコハマ市民自治を考える会会員 ○○（60代男 鶴見区在住） 標記、</p> <p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」（以下、「検討委」という）の学識者会合が開催され、今回から各委員によるプレゼンテーションが始まりました。話された内容等について、当方の意見・要望・疑問を述べさせていただきます。「検討委」におかれましては、下記に掲げました意見・要望・疑問等、及びその他市民が提出する意見・要望等を誠実に受け入れ、第3回以降の検討委の議論に反映されるよう期待いたします。▼本検討委の目的は、山下ふ頭の再開発にあたっての「方向性」と「導入機能」であるはず。おそらく、山下ふ頭の再開発を展望する市・港湾当局は、山下ふ頭にはこれ以上の港湾機能の付加は考えていないと思料する。ところが、第2回検討委冒頭、市・港湾局が示した「ファクトシート」には、「横浜港の国際競争力強化に向けた取組」とサブタイトルをつけ「国際競争力」を前面に出している。これでは、市は同ふ頭へ港湾機能を残す未練があるかのように受取れる。 つづく</p>
53 鶴見区	60歳代	<p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その2】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○（60代男 鶴見区在住） 確かに、横浜の現状を知る、横浜のおかれている環境を知るうえで、有用な情報ではあるが、山下ふ頭を含む内港の今後の街づくりを考えることに限定している、今般検討委の位置づけから見れば、話が大きすぎはしませんか、そこまで膨らませる必要があるのか、市民はそこまで求めているのですか、と言いたい。▼寺島委員長によるレポートもしかり。「日本(港湾)の埋没」であるとか、「日本海物流」だとか話が大きすぎるのではないだろうか。そして、ここまで話題を広げておいて、話を「横浜」にどのように収斂させるのかと思いきや、「ヨコハマはこの動きに対し戦略的にどう対応するか」であった。身も蓋もなくはないか。また、横浜の「幸福度」が政令指定都市（20市）のうち、「総合で『8位』」だそうだ。これを、私たち市民はどう捉えるか。どなたかの言ではないが、「1位じゃなくちゃ、いけないんですか」と言うのは、当方だけだろうか。 つづく</p>
54 鶴見区	60歳代	<p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その3】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○（60代男 鶴見区在住） そもそも、ランク付けが妥当なのだろうか。選挙の争点ではないが、「ワンイシュー」で投票先を決めるか、「マルチ(?)イシュー」を総合して候補者を選ぶか、と同様（否、それ以上にもっと単純）、市民各人が自分の意見や要望が市政に届いたと感じられることが一点でも叶えられていれば、「幸福」と感じられるのでは。ま、人それぞれですが。当方の場合、「図書館・博物館等施設数」が20位（資料5-P6）であったとしても、「IR=カジノ」の導入が阻止されたことをもって、幸福感（勝利感）は大きい。▼さて、各委員のプレゼンテーションにうつる。トップバッター涌井氏。氏の場合も、「広域で『戦略』・地域で『差別化』」との主張で、「広域」は東京湾で考える、とのことであった。全地球的・全日本的視点から比べれば守備範囲はかなり身近ではある。 つづく</p>
55 鶴見区	60歳代	<p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その4】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○（60代男 鶴見区在住） それに加え、上瀬谷で計画されている「花博」（=植物）に掛けて、近隣の「ズーラシア」（=動物）との「バイオスフェア」だそうだが、動物は半永久的かもしれないが、植物の方は2027年の一時期に過ぎない。サステナビリティは期待できないのではないだろうか。「柔らかかで有機的な空間」のなかで、「世代論」が取上げられている。今後は、ミレニアル世代、Z世代の特長・価値観をもった人達にターゲットを、ベビーブーマー世代とは価値観が違う、とする論であったと解釈した。しかし、差別問題にありがちな、「女性は～」だとか、「(横浜)出身者は～」といった、ありがちな「事実」を網羅して、あたかもそれが、当該集団の特色であるかのような錯覚を聞く人に与える、(ある意味)印象操作が行われる危険性はないのだろうか。 つづく</p>

インターネットに寄せられた投稿一覧

居住	年代	投稿（500文字まで）
56 鶴見区	60歳代	<p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その5】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 〇〇（60代男 鶴見区在住） 防災問題も挙げられていた。上瀬谷に広域防災拠点を設け、非「被災地」からの人員・物資を東名高速から、いったん上瀬谷に集貨・待機させ、横浜市内外に展開、という意味なのであろう。参考になる見解である。これに北山氏の言う（後述）、「水運」の活用を加えれば、防災対策上かなり心強い体制が整えられるのではないだろうか。期待。 ▼ひとり飛んで、村木氏のプレゼンについて。「脱炭素を含んだ都市開発」を述べていたと思う。ロンドンなどの状況を例示しながら、「サステナビリティ」「省エネ」「効率的エネ供給」「再エネ利用」「オフセット」でないと投資家は集まらず、消費者は買わない。日本は「周回遅れ」だとの指摘だったと思う。脱炭素は、当方も、まったくそのとおりである。 つづく</p>
57 鶴見区	60歳代	<p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その5】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 〇〇（60代男 鶴見区在住） 防災問題も挙げられていた。上瀬谷に広域防災拠点を設け、非「被災地」からの人員・物資を東名高速から、いったん上瀬谷に集貨・待機させ、横浜市内外に展開、という意味なのであろう。参考になる見解である。これに北山氏の言う（後述）、「水運」の活用を加えれば、防災対策上かなり心強い体制が整えられるのではないだろうか。期待。 ▼ひとり飛んで、村木氏のプレゼンについて。「脱炭素を含んだ都市開発」を述べていたと思う。ロンドンなどの状況を例示しながら、「サステナビリティ」「省エネ」「効率的エネ供給」「再エネ利用」「オフセット」でないと投資家は集まらず、消費者は買わない。日本は「周回遅れ」だとの指摘だったと思う。脱炭素は、当方も、まったくそのとおりである。 つづく</p>
58 鶴見区	60歳代	<p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その7】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 〇〇（60代男 鶴見区在住） ▼もとに戻し、北山氏のプレゼンについて、進駐軍による接收が最後の最後まで続き「戦後復興が遅れた都市＝横浜」の都市デザインについて述べられたと思う。飛鳥田市政時代の6大構想「都市づくり構想」（1965）から、「横浜市基本構想（長期ビジョン）」（1973）、都市アイデンティティ等々、飛鳥田氏が市長退任後も一定、引継がれてきた基本的「街づくり構想」について、徹頭徹尾「横浜」の過不足のない取組み等が、まさに、市民目線で系統的に語られていた。上記、北山プレゼンを聞き、寺島委員長も横浜の都市づくりについての報告は「ぜひとも各委員に共有していただきたい」と述べた。この後、プレゼンをする各委員は、この委員長意見を心して臨んでもらいたい。 つづく</p>
59 鶴見区	60歳代	<p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その8】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 〇〇（60代男 鶴見区在住） ▼次に、当局が自ら実行する「瑞穂ふ頭・ノースドック隠し」について述べる。事務局は「ファクトシート」説明のなかで、資料4-P39の写真をもって、「〇（まる）で囲んだ部分が内港」と言った。これは間違いである。この区域は、「客船受入施設」が「内港」に集中していることを示したもので、内港そのものを指しているわけではない。港湾当局は当初、内港とは、ベイブリッジ内の港域である、としていた。つまり、同写真（資料4-P39、P5、P15、P17、P19、P23、P35も同じ）では、まさに意図的に隠されている瑞穂ふ頭をはじめ右半分（時計の文字盤に見立て、ベイブリッジを「6時」とすると、「0時～5時」）も含めた区域であるはず。もちろん、右半分には、クルーズ船の接岸可能岸壁は存在しないが、「内港は、客船受入施設（港域）とイコールではない」。 つづく</p>
60 鶴見区	60歳代	<p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その9】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 〇〇（60代男 鶴見区在住） 港湾当局は、検討委員に（傍聴、動画視聴の市民に）対して、1) 瑞穂ふ頭を写真から削除することで、ノースドックの存在を見えなくし、2) 「客船受入施設（港域）＝内港」であるかのような錯覚を生じさせる、といった偽情報（ファクトではなくフェイク）を刷り込もうとしている。もうひとつある。資料4の表紙である。「CITY OF YOKOHAMA 山下ふ頭再開発検討委員会ファクトシート【横浜港取組編】～横浜港の国際競争力強化に向けた取組～」と書かれたタイトルのすぐ右。不自然に配された青色の台形をした模様（資料4 と表示のある）。これは、瑞穂ふ頭・ノースドック隠しそのものである。 ▼最後に、次回以降の本検討委には地元の関係団体が加わることになったことについて。どのような経緯で第3回からの参加が決まったのか不透明感・不快感がぬぐえない。 つづく</p>

インターネットに寄せられた投稿一覧

居住	年代	投稿（500文字まで）
61 鶴見区	60歳代	<p>「第2回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見【その10】 港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○（60代男 鶴見区在住） ▼第3回以降の議論について。今後も委員によるプレゼンが続くと思うが各委員には、①あくまで「横浜目線」で話をしてもらいたい、②現横浜市長はIRの導入を否定した。このことを認識のうえ話をしてもらいたい、③横浜港には米軍基地（ノースドック）が存在する。市（市会、市民、行政）は、当該基地の「早期・全面・無条件返還」を求めてきている。この問題からも逃げず積極的に採り上げてもらいたい—— 以上、期待を述べ終わりとする。 おわり</p>
62 栄区	80歳代	<p>横浜市山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合（第2回）に関する意見・感想 ○○ Email : ○○</p> <p>1. 市民から応募があった意見・感想の数があまりにも少なすぎる。これは、山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合の開催と意見等の募集について、市のHPにしか公表されておらず、「広報よこはま」による正式な市民への周知がなされていないことによると考えられる。 山下ふ頭再開発は、かつてカジノを含むIRが計画され、市民の関心が非常に高かった。この重要な「まちづくり」の方向性が諮問される学識者会合において、このような少数の市民意見しか反映されないのは、市民自治の趣旨に著しく反するものである。「広報よこはま」による正式な市民への周知が必須である。</p> <p>2. 上記1. の意見を提出しているが、第2回会合の資料3「インターネットフォームに寄せられた市民意見等」のまとめに取り上げられていないのはどういうわけか。</p>
63 栄区	80歳代	<p>3. 「まちづくり」においては安全確保が最重要であり、この検証を怠り上物を計画しても、文字通り砂上の楼閣となる。そこで、次の項目について学識者会合で真摯に検討していただきたい。(1) 資料3の「3 御意見の内訳(78件)のその他の御意見・御感想(33件)」には「・瑞穂ふ頭の部隊配備撤回等を検討すべき」が記されているが、これは最近、瑞穂ふ頭の米軍基地が強化され、市民意見が複数件提出されたことを反映している。この重要な意見について学識者の間で何ら議論が交わされていない。台湾有事ともなれば、攻撃対象となり得る瑞穂ふ頭の至近距離にある山下ふ頭のまちづくりにおいては、必須の検討事項である。(2) 最近、横浜市では、とみに高層建築が増加しており、同再開発においても高層建築物が計画される可能性が高い。高層建築物の耐震性能については、首都直下型地が30年以内に70%の確率、南海トラフ地震が40年以内に90%の確率で発生が予測されているが、このような巨大地震に対する耐震性能は未知数であり、倒壊はしないまでも上下水道や電気ガスなどのエネルギー供給に支障をきたさないという保証はない。</p>
64 栄区	80歳代	<p>このような巨大地震が起きた場合、長期間にわたって街の機能が麻痺してしまうことが十分考えられる。ところが、横浜市の震災対策は、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震を見込んでおらず、神奈川県が想定している地震より小さい震度しか対応していない。ちなみに、両自治体とも減災目標として死者数の半減を目指しているが、それを比較すると、横浜市が想定している津波によるものを除く死者数は3,260人であるのに対し、神奈川県が想定している横浜市内におけるそれは9,510人であり大差がある。すなわち、死者数は建物の倒壊、火災発生、がけ崩れ、道路破壊などの震災被害の規模を表しており、横浜市の震災対策は消火、救急、避難所・仮設住宅、食料・飲料水備蓄などにおいて、最悪の事態を想定したものになっていないことを意味している。増加している高層建築の火災対応や居住者救助、被災後の居住場所確保など横浜市の震災対応は果たして行き届いているか、先ずこの最重要の安全問題についての検証が必要である。</p>

インターネットに寄せられた投稿一覧

居住	年代	投稿（500文字まで）
65 栄区	80歳代	<p>なお、横浜市は震災対策において市民による自助・共助の重要性を呼び掛けているが、横浜市は市民に元禄型関東地震の想定震度図を提示している。しかし、これは神奈川県が提示している対照型関東地震のそれよりも、1～2段階弱い震度となっている。これでは、横浜市民は想定される最大規模の地震について何ら知らされていないこととなり、自助・共助に大きな支障が生じるのは明らかである。</p> <p>4. インターネットフォームに寄せられた投稿一覧には、市民からの意見・感想がそのまま掲載されているが、フォームの制約もあってか、文章がベタ張りとなっていて非常に読みづらい。学識者の意見は多色の箇条書きとなっており説得力のあるものとなっている。</p> <p>市民による多色・箇条書きの読みやすい意見が投稿一覧に提示されるよう、改善が必要である。</p>
66 港北区	60歳代	<p>あと2日でこの意見募集は締め切られますが、開始直後に、市民にもっと周知する広報の仕方を工夫、改善していただきたいとの要望を上げていたにも拘らず、市においては全く善処されなかったことをたいへん残念に思います。市のホームページで「広報・広聴・報道」「記者発表」「港湾局」と潜っていても、意見募集は出て来ません。配信されている動画に関しても、27日時点で553回の視聴数に留まっています。明らかに、市民に知られていない、裏を返せば、市が本気になって市民に知らせていないという実態を如実に示していて遺憾です。カジノ誘致を止めた横浜市民に対して不誠実な対応と言えるのではないのでしょうか。ポストカジノの山下埠頭再開発がどうなっていくのか、市民は強い関心を依然として持っています。この関心と参画の意欲に水を差すような市当局の姿勢には疑問を感じます。やはり、この計画を港湾局だけで仕切ろうとしている市の取組体制の弱さから来る問題があります。北山委員が言っているように、港湾局だけではなく、都市整備局との連携が必要ですし、さらに言えば、市長直属の全市庁横断的な、総合調整的部署が設けられて然るべきです。</p>
67 港北区	60歳代	<p>山下埠頭再開発の「方向性」を検討するうえで知っておくべき客観的事実を共有するためという趣旨で為されたと思われる市当局および寺島委員長からの「ファクト」の説明でしたが、「ファクト」の共有という点で、北山委員による横浜の都市（まち）づくりの歴史についての報告は不可欠のものと思います。これについては寺島委員長からも指摘があった通りです。とりわけ、平成22年（2010年）3月の「次なる50年 横浜は海都へ ～ 「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」提言書」は、カジノ導入を検討する前に出された「ファクト」であり、「カジノ導入のための前捌き」（幸田委員）となった「都心臨海部再生マスタープラン」（平成27年（2015年）2月）に替えて、「既往計画」として委員会が参照しなければならない上位の計画書です。</p>
68 瀬谷区	70歳代	<p>山下ふ頭再開発に関する私見 □□ 70歳代 男性 瀬谷区在住（A）以下では、山下ふ頭再開発についての具体的な施設の提案ではなく、一市民として横浜市の街づくりがこうあってほしいという私の考えを述べます。検討委員会の様子をYouTube で拝見しましたが、寺島委員長の発想の原点には、未だに経済成長の夢を追いかける姿勢が見てとれます。またある経済団体は、山下ふ頭再開発では、少子化の結果市民税が減るから、それを補うためIRに変わる施設を考えてほしいと言っています。この提言には、市民税の不足をどう補うかの経済的視点しかなく、横浜をどうしたいのかとの方向性が欠如しています。日本は最早、高度成長が止まって、成熟した社会に移行する段階にあります。したがって日本の今後の大きなトレンドとして人口減少は避けられず、横浜の街づくりも人口減少を前提にして考える必要があります。横浜港が港湾施設として世界の流れに遅れつつあるとのことですが、これは日本の産業政策の帰結であり、横浜だけが頑張っただけで回復できるものではありません。そこで、山下ふ頭に「にぎわいによる集客機能」を持たせようということのようですが、</p>

インターネットに寄せられた投稿一覧

居住	年代	投稿 (500文字まで)
69 瀬谷区	70歳代	<p>(B) これも集客機能であれば何でもよいというものではありません。前市長の時代に山下ふ頭に I R を導入する計画が持ち上がりました。I R 開発では 1 兆円規模の初期投資が行われるので、短期的には地元の経済を潤す効果はあります。そして完成すればそれなりの集客効果はあるでしょう。しかし I R の中心であるカジノでは日本人の財産が海外資本に搾取される仕組みになっており、いずれは日本人の富が奪われ、長期的には国力の衰退を招きます。集客効果はあっても、長期的に国力の衰退を招くようなものは横浜の隣には東京があり、東京にはにぎわいの要素がすべて整っているため、にぎわいによる集客力では東京には勝てません。また横浜には美術館や博物館は数えるほどしかなく、東京には比べ物になりません。横浜はにぎわい集客力でも文化的な魅力による集客力でも東京に大きく劣っています。以上の観点に立脚して、横浜の街づくりの方向性として私は以下の 2 点を提案したいと思います。(1) 落ち着いた街づくりを目指してほしい 私は、横浜の街づくりの方向として、</p>
70 中区	40歳代	<p>横浜市資料について、第 1 回検討会時に寺島委員よりファクトの確認が重要と話が出たが横浜市事務局側の資料(ファクトシート)や案は、輸出港横浜の歴史の変化を捉えきれていない資料と展望が発表されたこと、港湾競争力の維持・発展という、過去通りの流れ、これだけ大きな空間や事柄に広い視野を持っていないような資料に残念さを感じました。委員の皆様が仰るように未来を見据えた議論とスタートが必要だと思います。例えば、いま小学校に通う子供が 30 歳でも横浜で家族がいて、50~60 歳まで至るような市民の生活イメージも着地点として取入れることが必要だと思います。未来の横浜も「港町 横浜」と語り継がれる港湾地区から(つまりインナーハーバーから)瀬谷区のランドマーク(涌井委員の提案)地区へ、連鎖的につながり発展し、横浜の各地で人々の暮らしと未来がイメージできるような大きなプランで山下ふ頭を利用してほしいと感じます。港湾競争力で維持するような土地ではなく、新しい事を受け入れ(新流行・手法・事業)、手をとれる・馴染める風土(友好)や街づくりをできる、いま横浜で生まれているハマッ子に未来に任せられる土地にしてほしい。</p>
71 瀬谷区	70歳代	<p>(C) 賑やかなニューヨークではなく、ボストンのような落ち着いた街を目指してほしいと考えています。文化的で落ち着いた街の魅力で集客力を発揮できる街を目指してほしいと思います。(2) 将来の横浜市民を増やそう 子供たちは(他都市の子供であっても)将来の横浜市民であると考えましょう。今後の人口減少は不可避ですが、その中で横浜の少子化の度合いを全国レベルよりも小さくする施策として、新しく開発するこれらの施設(山下ふ頭や上瀬谷の施設など)では、横浜の子供たちや他都市の子供たちに繰り返し来たいと思わせるものにしてください。たとえば、子供たち専用の小規模サッカー場や小規模な野球場、屋内競技施設を何面も作り、子供たちが自由に使える施設にするなどはいかがでしょうか。最後に山下ふ頭再開発検討委員会のメンバー構成について：以前に名古屋造形大学学長だった〇〇さんを検討委員会のメンバーに加えてほしいと思います。本人に確認しましたが、横浜市から呼ばれば喜んで参加します、とのことでした。(以上)</p>
72 港北区	60歳代	<p>北山委員のプレゼンテーションに共感しました。北山委員の語る横浜の都市(まち)づくりの歴史には大いに学ぶところがあると思います。戦後の飛鳥田市政での横浜という都市のアイデンティティづくり、その精神を受け継いでの 50 年後を見据えた芸術文化創造都市を目指す「海都横浜構想 2059」(2009 年)、さらには 2010 年 3 月の「次なる 50 年 横浜は海都へ「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」提言書」での構想、と連綿と続いている横浜の都市づくりに横浜市民の気骨を感じました。山下埠頭再開発に当たっては、先人の業績に謙虚に学び、未来の横浜市民にも誇れる都市づくりをしていきたいものです。その点で、北山委員が今後の人口減少社会、定常社会における新しい都市モデルを目指すべきと提起した点は、委員会の諸氏が共有すべき論点と思いました。もはや終わっているとしか言いようのない紋切り型のテーマパーク型都市づくりに替わって、資本が活動するだけでなく、「自然とコミュニティと共生」する都市づくりこそが、横浜の目指すべき都市づくりだとの意見に激しく同意します。「未来の市民のための固有の文化を表現」する内実が問われています。</p>

インターネットに寄せられた投稿一覧

No.	居住	年代	投稿 (500文字まで)
73	市外	70歳代	<p>横浜の都市計画の歴史は独特でおもしろい。全国いや世界から注目される画期的なものでした。それは1963年、飛鳥田市長から始まる市民参加と自治体改革をめざす「人間中心の都市構想」でした。「第2回有識者会合」において、北山恒（横浜市大教授）さんはこの「学識者」の中で際立って市民派のメンバーです。彼は「横浜のまちづくりの歴史を振り返ってください」と言いたいということがよくわかる。この飛鳥田市政による都市計画の理念は市長が変わっても（社会党から自民党）歴代市政に脈々と受け継がれてきました。1965年「1万人市民集会」と「都市づくり構想（六大事業）」。1973年「横浜市基本構想（長期ビジョン）」。2004年「創造都市横浜構想（クリエイティブシティ）」。2009年「海都横浜構想（インナーハーバー整備構想）」。しかし2015年、林市政によって覆られます。カジノを中心とする街作り。360万市民を置き去りにした改革を見直し横浜の歴史、市民主体の街作りに帰るべきです。</p>
74	南区	70歳代	<p>（1）学識者と委員会担当者メンバーは横浜の都市計画の歴史を知るべきだ。それは全国いや世界から注目される画期的なものだ。1963年、飛鳥田市長から始まる市民参加と自治体改革をめざす「人間中心の都市構想」だ。「第2回有識者会合」において、北山恒さんのプレゼンテーションで示された。北山さんはこの「学識者」の中で際立って市民派のメンバーだ。彼は「横浜のまちづくりの歴史を振り返ってください」と言いたいということがよくわかる。この飛鳥田市政による都市計画の理念は市長が変わっても（社会党から自民党へ）歴代市政に脈々と受け継がれてきた。1965年「1万人市民集会」と「都市づくり構想（六大事業）」1973年「横浜市基本構想（長期ビジョン）」2004年「創造都市横浜構想（クリエイティブシティ）」2009年「海都横浜構想（インナーハーバー整備構想）」。（2）へつづく</p>
75	南区	70歳代	<p>（2）しかし2015年、林市政によってそれは覆される。「（カジノ付きの）都心臨海部再生マスタープラン」によって「人間中心の都市」「市民の政府」から市民抜き・カジノありの、グローバル企業だけが「輝き続ける世界都市」構想に様変わりした。そして今、「山下ふ頭再開発」が慌ただしいスケジュールで進みつつある。なぜ急ぐのだろうか？ 市民とともにじっくりと考える、という気配は感じられない。やるべきは「山下ふ頭再開発」ではなく「山下ふ頭まちづくり」なのではないか？ 山下埠頭に求めるのは物流の国際競争力強化ではなく、横浜市民にとっての魅力ある都市づくりではないだろうか？ 市民の意見を多く取り入れるには、庁内横断的な組織体制で各局に蓄積された資源を集約して、さらに市民や事業者が参加する部局を創設したり、市民が主導する市民会議、区民会議を開催するなど長期的な計画が必要だ。</p>
76	港北区	60歳代	<p>ズバリ断言できます。港湾局は、市民目線で動いていません。横浜市民を軽んじています。意見募集の締め切りが1カ月先になったことをなぜ分かり易く市民に知らせようとはしないのでしょうか。当初の締め切り日に合わせて、息急き切って、午後5時の刻限に間に合わせようと遮二無二努めたところ、締め切りが1カ月先の1月29日になっていた。送信後にも気付かず、今日30日になって初めて他人に教えて貰って知りました。慌てる必要などなかったわけです。正に人を食ったやり方です。これを行政がやる。最大の基礎自治体である横浜市がやる。これまでも再三再四に亘り、広報の在り方について、市民目線に立ってやって欲しいと要望して来たにも拘らず、一向に改めることなく、同じ対応を繰り返すばかりです。港湾局は、この山下埠頭再開発問題で、本当に市民の参画を望んでいるのでしょうか。これまでの対応を見る限り、極めて疑問です。港湾局がこの疑念に異を唱えるならば、直ぐにでも、検討委員会の動画の案内を市のホームページの目立つところに出して然るべきです。</p>
77	南区	60歳代	<p>私は山下埠頭にフェリーを就航させると良いと考えています。フェリーターミナルは広い駐車場を必要としますが、フェリーの接岸時にしか使わず、かつヒートアイランドの元凶です。そこでその場所をRVパークを付設した立体駐車場にすれば良いと思っています。一階はフェリーの乗降用に天井を高くします。山下公園の駐車場は時折予約車で満車になっているので接岸時以外はバスの駐車場にしてもいいと思います。2階は一般の駐車場、3階をRVパークにします。キャンピングカーを使う人の中には子供連れのエコツアーが趣味という方がいます。横浜港周辺の観光だけでなく、JR石川駅に近いので、車を置いて鎌倉などに電車でアクセスすることができます。首都高速から次のRVパークにアクセスも可能です。そして屋上に太陽光発電パネルを設置してメガソーラーにします。メガソーラーは3ha以上必要なそうなので、横浜市内で数少ないメガソーラーとなります。</p>

インターネットに寄せられた投稿一覧

	居住	年代	投稿 (500文字まで)
78	南区	60歳代	<p>私が、リニューアルされたマリインタワーにのぼった日は快晴でした。すばらしい眺めでした。そして、眼下にある山下埠頭の半分が「市民がつくった森」で半分が「低層の建造物の屋上につくられたメガソーラーであったならば」と想像しました。マリインタワーから眺めるとき、横浜港を囲んで瑞穂埠頭に風力発電ハマウイング、山下埠頭に森とメガソーラーが見渡せる景観は「環境都市横浜」の象徴となるでしょう。私にはとても残念な景観があります。それはグランモール公園から見た横浜美術館です。あんな風になってしまったら、もう百年変えることはできないでしょう。マリインタワーからの景観は、次の百年の横浜市民が誇れる「環境都市」の景観をつくってほしいと願っています。学識者会議をみさせていただいて、その見識の深さや広さに目を見張るばかりでした。その道の最前線におられる方々は、その実務や学究の細かい内容に心を砕き、さらに世界的な競争に晒されながら、底には日本や世界の未来への思いが沸々と流れていると信じています。横浜の未来もよろしく願います。</p>
79	南区	60歳代	<p>私は、山下埠頭にフェリーを就航させるとよいと思っています。国際的な運行では客船も貨物船も大きくなりベイブリッジの内側へ入って来れない状況です。せっかく船着場として存在している山下埠頭を無駄にしないという観点で考えてみました。ある報道では「鹿児島県の農産物を新門司港にトラックで、そこからフェリーで神戸に。再びトラックで東京まで運ぶ。」これによって運転手の労働時間の割り振りを凶っていました。フェリーの利用は24年問題のひとつの解決策のようなのです。また、モーターシフトが環境負荷の低減効果の大きい取り組みとして注目されています。例えば鹿児島から横浜までフェリーがあれば、先ほどのトラックはその経路の多くを船に代替できます。別の報道では長距離を運送する会社がその途中に小さな支店を置き、運転手を交代することで24年問題の対策を図っていました。横浜には多くの物流の会社があるので、フェリーにトラックを積んで横浜の運転手が目的地まで運ぶ。などということが可能になるのではないのでしょうか。横浜の流通は国際的な視野に立っているとは思いますが、視点をかえて、国内の流通にも貢献できるとよいのではないかと思います。</p>
80	南区	60歳代	<p>港の見える丘公園の展望台からフランス山地区にかけて、木々の中に遺稿と遊歩道があり、緑の中を歩くことができます。その先の山下ポンプ場のところにも木々があって、マリインタワーから見ると緑の帯です。私はこの先の山下埠頭に「まとまった樹林地」をつくとよいと思います。昨年山下埠頭の再開発のパンフレットには「緑を中心とした提案」があり、「緑28万平方メートル」とありました。これだけの広さがあれば、緑の中にある道を歩く森になります。私は2020年2月の県庁での「脱炭素社会への展望」を受講しました。あるパネラーの方が「脱炭素社会にはまとまった緑が必要だ。しかし中心部では無理云々」と肩を落としておられました。確かに関内を歩くと次々にばらばらに建物が更新されるのを目にします。新しい建物の周りに木々を植えることが精一杯でしょう。山下公園の再開発は、まとまった緑を市の中心部に据えることができるチャンスです。2021年全国植樹祭では、都市公園の一角に「みんなで海岸に森林をつくらう」というテーマで一般の人が参画した植林活動が展開されました。横浜市民みんなで、横浜の中心部に「まとまった樹林地」をつくるのです。</p>
81	南区	60歳代	<p>私は、山下埠頭に市民の植林によって28平方メートルの森を。と考えています。その後の管理についても考えてみました。横浜の樹林地は百年以上、肥料や燃料として管理されてきた里山といわれるものです。今その多くが市民活動によって管理されています。肥料は、はまっこユークという取り組みがあり、街路樹の剪定枝等を木質資源として活用しています。そこで、園芸博覧会の会場の一角にバイオマス発電所をつくることを市民の提案に投稿しました。市内の樹林地を木質資源としてバイオマス発電に供給するという考えです。樹林地を再び資源として活用するのです。風力発電ハマウイングでは作った電気です水を分解して水素をつくり、同時にできる酸素は空気中に放出しています。私たちは酸素がなくては生きていけません。その酸素を生み出す方法が光合成以外にもあったのです。樹林地で木々が二酸化炭素を固定、酸素を放出。それを木質資源として発電してまた酸素を放出する。今二酸化炭素からメタンなどの燃料を合成する研究もされています。そのプラントが付設されれば、山下埠頭が持続可能な森林経営の範となるのです。</p>

インターネットに寄せられた投稿一覧

No.	居住	年代	投稿（500文字まで）
82	南区	60歳代	新潟県長岡市に道の駅ながおか花火館があります。長岡の花火は全国的に有名です。この花火に対する想いがこの道の駅には綴られています。1500柱という命の重さを今もって語り継いでいました。私は先日市役所で開催された市の平和講演会を参観しました。そこで横浜市が「ピースメッセンジャー都市」であることを知りました。この場でひとりの中学生が言いました。「戦争が風化するのはいやだから。」横浜は、関東大震災と横浜大空襲でいったい幾柱の命が奪われたのでしょうか。空襲は大空襲だけではありません。この文章を書くのに調べてみました。確定された数がありません。万と数える資料もありました。その痛ましさを市民全員で語り継ぐ場所がないのです。山下公園が大震災の瓦礫でつくられたことは山下公園の片隅に綴られています。一体何人の人がそれを読むでしょう。私は「命の大切さ祈念館」といったものを山下埠頭につくってほしいと思います。毎年語り継ぐイベントができるホールやばらばらにあるそれらの資料を集めた資料室、世界の人が平和について語り合える会議室のある「ピースメッセンジャー都市」にふさわしい施設をつくってほしいと願っています。
83	南区	60歳代	第2回の学識者会議では、山下埠頭の防災の役割が注目されていたように感じました。私は山下埠頭の再開発には28haの市民がつくる森、RVパークとメガソーラーを付設したフェリーターミナル、「命の大切さ祈念館」をつくとよいと考えています。更に私は防災の視野で考えてみました。災害発生時に使える施設をつくるのです。例えば1階は全天候型の運動場（うまく柱を配置して、トラックや人工芝などがあり、市民が自由に散歩や運動ができるような。臨港パークから続くBAYWALK YOKOHAMAの延長上に。）2階は中第2スポーツセンターとフードコート。このふたつは大規模災害時には船で来てくれた災害ボランティアや運ばれた災害援助物資の受け入れの拠点にします。そして屋上はヘリポートにします。横浜市はペロブスカイト太陽電池の活用を推進しているので、通常はこのペロブスカイト太陽電池を設置しておいて電気を備蓄し、大規模災害時には巻きとり、ヘリポートにします。これからも学識者会議をみて、視野を広げていきます。
84	西区	70歳代	1. 山下埠頭の再開発検討に当たって、港湾局は2015年に策定された「都心臨海部再生マスタープラン」を基軸とする姿勢である。このプランを既往計画として位置づけたいとの目論見である。顕在的にも潜在的にも少なくない委員がその方向に沿っているように見える。しかし、内田裕子委員の同プランを評価する意見を受けて、幸田雅治委員は「このプランはIR誘致のための前捌きであった。市も認めている」、「これを検討の前提とすべきではない。リセットしてゼロからやり直すべきである」と見事に本質を突く批判を展開した。2021年市民の力でIR誘致を断念させたが、市による「IRの振り返り」はまったく市民目線からかけ離れた身勝手、独善的な内容であった。幸田発言はこのことも間接的に批判したものである。検討委員会を視聴した市民の多くがこの幸田発言を強く支持したことを委員会も港湾局も理解しなければならない。
85	西区	70歳代	2. プレゼンテーションを行った3人の内の一人、北山恒委員は人口減少に向かう現代を文明の変換点と捉え、「固有の文化の表現」、「自然と文化の共生」、「居住と生産の共有」を視点に新しい都市構想を訴えた。その上で強調したのは「未来の市民のための開発」であった。大所高所から、そして遠い先を見据えた鋭い切口を高く評価したい。8月28日の第1回検討委員会に於ける同委員の発言：「短期間で最大の利益を上げるようなやり方を追求すべきではない」、「効率を追求すると多様性が失われる」に完全に同期するものであり、委員会全体で共有すべきである。
86	西区	70歳代	3. 寺島実郎委員長 Fact Sheet：横浜港の国際競争力強化、港湾物流に関する多くのデータや情報は学びの対象としては興味を覚えた人もいるかもしれない。しかし、内港地区の山下埠頭のあり方を議論するに当たってどれほどの意味、価値を持つのかという疑問をめぐえなかった。明治維新以降の時代の節目に言及しながら寺島氏は「視界と構想力が問われている」とそれ自体は真つ当なことを発したが、そうであるならば飛鳥田市政下における「人間中心の都市構想」（1965年）、北山委員が触れた「横浜市基本構想」（1973年）、「創造都市横浜構想」（2006年）、「都心臨海部・Inner Harbor構想」（2009年）などをしっかり纏めて委員会全体で共有すべきではないか。それこそ最上位にくるべきFact Sheetである。その準備に要する労はそれほど多大ではない。問われるのは港湾局の歴史に真摯に向きあう姿勢と責任感である。

インターネットに寄せられた投稿一覧

	居住	年代	投稿 (500文字まで)
87	西区	70歳代	4. 1) 検討委員会の初めに港湾局から第1回目の委員会を受けての市民意見の数と分類に絞った要約が報告された。それに対する意見・質問はどの委員からも発せられなかった。しかし、議論の中で市民意見に対する言及がまったくないのはどういうことか。港湾局がいつその纏め(資料3)を委員会に配付したのか定かではないが、目を通す時間がなかったとは言えないはずだ。関心がなかったのかじっくりとレビューする意欲がなかったのかは分からないが、このような体であれば何のための市民意見募集かと言いたくもなる。 わずか37人から64件の小規模な投稿であったが、検討委員会の委員が等しく目を通し理解すべき貴重な意見は少なくなかった。
88	西区	70歳代	2) ただし、委員に刺激を与え、緊張をもたらすには最低その十倍の市民が積極的に意見を提出するような状況を作る必要がある。その意味で港湾局はこの検討委員会の存在と市民意見の募集等について十分な広報を展開しなければならない。 もっとも簡単で有力な方法は「広報よこはま」に掲載することである。それこそが行政の取るべき術ではないか。 2020年の春に募集した「横浜IRの方向性(素案)」には5,040人の市民から9,509件もの意見が提出された。圧倒的なカジノ反対の市民が積極的に応じたことが背景にあるとはいえ、市は大々的な広報を繰り広げ、A4 4頁の意見提出用葉書付きのパンフレットを用意した。さらには2019年の12月には「IRの実現に向けて」と題した「広報よこはま」特別号を全戸配布した。2021年3月には実施方針の公表を受けて同じく「広報よこはま」特別号でYOKOHAMA INNOVATION IRをアピールした。 民意に背いても実施したいプロジェクトには全市を挙げての広報に勤しみ、湯水のように金を投じ、なるべく市民意見を抑えたい事業には行うべき広報を控えるのでは真っ当な行政とは言えない。
89	西区	70歳代	5. 1) 委員会の会合の終了間際に港湾局(竹内紀充部長)は唐突に次回からの地域関係6団体の委員会会合参加を通知した。なぜそのような発言に至ったのかは十分な説明なしであった。 第1回検討委員会では「委員会の自立性が大事」だとか「ある程度固まってから参加してもらうべきである」といった発言があったにも関わらず、それを無視した形だ。 いったいいつ委員会との間で第3回からの参加をよしとしたのか。仮に特定の委員との間だけで合意があったとすればおよそ民主的とは言えない。 そもそも港湾局から発表することではなく、委員会の委員長が発するべきことである。 なぜ、一通り各委員から発表が終わるまで待たせることができなかつたのか。何がしかの不当な外部圧力があつたのではないかと勘繰りたくなるような決定だ。
90	西区	70歳代	2) そもそも6団体すべてが利権を持った団体である。山下埠頭の再開発で何らかの大きな儲けを得よう、またはおこぼれに預かろうとすることで名を連ねたと見るのが自然だ。かれらが健全な市民の意向や想いを代弁することはまずありえない。 第1回委員会で冒頭の意見が出た後、寺島委員長は「地元の意見をまったく聞かないと言うのはおかしい話だ」と言った。 地元というのであれば本来は市民の代表複数を委員会メンバーに加えるのが公平で民主的であるはずだ。 任命権が市にあるとして端から市民排除するのはIR誘致での市民無視の姿勢に通じるものである。 どうしても市民の代表の参加が不可ということであれば、100歩譲って委員会としての答申(原案)が出された段階で、委員会の場で市民の代表複수에意見陳述の機会を与えるべきである。さらにはその最終案が示された後、広く市民意見を募集し、合理的で多数を占める意見はその修正に生かすことを保証しなければならない。
91	西区	70歳代	6. 1) 2回の検討委員会で完全に素通りされた極めて重大で市民の関心も高いテーマがある。それは瑞穂埠頭の米陸・海軍基地であるNorth Dock(以降NDと略す)である。どの委員からもNDへの言及がまったくなかつた。 瑞穂埠頭は同じく内港に位置しながらその性格上2015年の「都心臨海部再生マスタープラン」からは対象外とされた。しかし、前述したように本プランをベースに検討することの非が徹底されたはずと見ている。 外形的には神奈川県も横浜市も長年NDの返還を求めてきた。しかし、今年1月の日米2+2で米陸軍の小型揚陸艇部隊の新編が合意されてからは、県、市共に新編に伴う情報提供や市民の安全・安心のための対策要求に矮小化し基地の早期、全面返還の絶対的要求をトーンダウンさせている。 自治体としての自立、存立に鑑みて、山下埠頭のあるべき姿を検討するに当たっては、ND問題を議論の対象外にするのではなく徹底的に議論し、委員会としての矜持を示してもらいたい。

インターネットに寄せられた投稿一覧

	居住	年代	投稿（500文字まで）
92	西区	70歳代	2) 因みに、わたしは瑞穂埠頭から直線距離で1,600mの処に住んでいる。音響測定船、小型揚陸艇、多種類の輸送船などが日常的に視認できる。今春以降明らかに米軍船の出入りが増えているが、横浜市の基地対策課が把握しているのは船名、形状と入出港情報程度である。それ以外は米軍の運用に関する事項としてすべて隠されている。日米地位協定という国家的課題に及ぶ問題であるが、かかる現状を看過するわけにはいかない。検討委員会が本件に目をつぶることは許されない。
93	西区	70歳代	7. 1) 寺島委員長は8/28第1回検討会議の冒頭で次のような発言をした。「IR=カジノにされたために議論が貧困になってしまい、悲劇となった」。これはとんでもない言い草で、市民を侮辱するものであった。横浜市が誘致しようとしていたのはあくまでカジノであって、IRはカモフラージュでしかなかった。そこを大半の市民が正しく見抜いていたからこそカジノ誘致撤回をもたらしたのである。寺島氏はSuntory HDの代表取締役社長と共に「IR推進協議会」が設立された際（2015年4月）に暫定共同代表の任に就いた。その後、カジノ解禁を是とし、IRは観光立国に必須であるとの啓蒙に努めた。
94	西区	70歳代	2) もちろんこの山下埠頭の再開発検討において自ら改めてIRの誘致を提言することはないであろう。しかし、彼は8/28の検討会議後の報道陣の取材の中で、集約される見通しの二つの内の一つに訪日客や国内観光客を山下埠頭に引きつけるプロジェクトを挙げた。それが即IRとは限らないが、IR復活の可能性は決してないとは言えない。現に検討委員会委員の中にはIR賛成派が相当数いる。また2025年の横浜市長選挙には再びIR誘致派市長誕生を目論む動きが始まっている。市民はこうした点を押さえながらこの検討委員会の動向に目を光らせていかなければならない。
95	都筑区	30歳代	山下ふ頭にはアゴヒゲアザラシを含めた海洋哺乳類を中心とした水族館であるタマちゃんマリランドをつくってください。山下ふ頭は横浜市の海に面しています。海洋都市横浜を振興していくとともに、地球環境保護推進や観光客を誘致するため水族館があるとより発展すると思います。 横浜市には2002年にアゴヒゲアザラシのタマちゃんがきて、流行語大賞を受賞し、横浜市から特別住民票の交付をうけるなど大変話題になりました。横浜市や海に親しみを持ってもらうためにもタマちゃんを冠した水族館を作れば山下ふ頭の発展により効果的と考えます。 また、山下ふ頭まで横浜駅からLRT（Light rail）を通せば発展に効果的だと思います。山下ふ頭は交通の便が必ずしもいいとは言えません。車やバスより環境にやさしいLRTを通せば脱炭素・SDGsをアピールできるとともに、横浜駅、みなとみらい、山下ふ頭までつながり通勤通学観光に便利になり、交流人口が増え観光客も誘致できると思います。 タマちゃんマリランドを併設しかつ横浜駅からLRTを繋げばより横浜市の発展に繋がります。
96	市外	70歳代	・学識者委員会のビデオを拝聴しました、山下ふ頭についての私の提案を是非ご検討していただきたくメールしました ・提案の概要書をつくりましたがA4版2枚でこの枠には納まりませんので、港湾局にメールしますのでご覧いただけ、ご検討いただけましたら幸いです ・提案の要約はタイトルは「MORE YOKOHAMA MORE YOKOHAMA PROJECT」で、サブタイトルは「開港以降消滅したヨコハマの建物や街並みを興し、その時代の港町の賑わい・生活・文化・風俗等を体験し、時間のなかでなかで都市が重層化されて今日に至っていることを実際に体験する場をつくる」というものです
97	金沢区	60歳代	大型の天体望遠鏡を寄贈できるという市民があり、住民向け・一般市民向けの天体観望会用に活用してはどうでしょうか。 ホテルなどの宿泊施設が付帯していれば観光客だけでなく学校利用も考えられます。

インターネットに寄せられた投稿一覧

居住	年代	投稿（500文字まで）
98 港北区	50歳代	<p>運営が市民不在となっています。そう思いませんか？第二回委員会で委員から市民の意見について、なにも意見がありませんでした。一方通行です。</p> <p>第3回からは地域関係団体からの委員も参加するそうですが、なぜ、こうなったのかわかりません。山下埠頭は市有地であり、倉庫をどかすのに多額の税金を使っています。市民のために使われるべきですが。企業のために使われてしまいます。市民の意見と真逆の方向に行っています。これでは、市民の意見を無視して、強引に進められたカジノを含むIR誘致とまるで同じです。市民の意見は聞いたけれども、結局は横浜市と企業で水面下で話を進めてしまいました。説明会は一方的。虚偽だらけ。横浜市民の満足度が低いのは、財政が厳しいからではなく、市民のためにお金を使わず、企業のためにお金を使っているからです。</p> <p>第3回の突然の発表。1月12日。市民意見は1月8日まで。あまりにも身勝手。方針変更。許されません。</p>
99 港北区	70歳代	<p>私は、山下ふ頭再開発について港湾局主催の市民ワーキングに2回参加し、意見募集も2回提出した港北区民です。以下、意見を述べます。①前述の市民ワーキングでは、たくさんの市民が参加して活発な意見交換が行われ、若い世代からもユニークで有効な構想案が出ました。この重層的な市民の意見は、この検討委員会のどこに位置付けられたのか全く説明がなく、参加した市民には理解できません。②冒頭に1回目後の市民意見の報告が簡単にされた後、委員長、3名の委員からのプレゼンがありました。しかし、それぞれの考え方を述べるにとどまり、市民意見に触れるのでもなく、再開発に向けてお互いの知見を発展させるのでもなく、言いつばなしです。無責任だなと感じます。港湾局も、まず、ここでこれまでの市民の意見を丁寧に報告・説明するのが筋ではないですか？③次回から地元の地域関係団体の6団体が加わるとの話がありましたが、その理由や説明がありません。山下ふ頭は市民の財産です。今でさえ納税者である市民の存在が見えない学識者会合に、さらに地元利権を持つ団体を加えるのなら、そもそも地元の市民を加えないやり方は、民主主義にほど遠いです。</p>
100 港北区	50歳代	<p>第一回の市民の意見。39名78件。少ないと思います。第二回の意見募集は、締切が唐突だったので、のびないと思います。こんなに少なくてもいいのでしょうか？今。横浜市に関心を寄せる市民の間では、この委員会を設置した山中市長、横浜市への批判が、渦巻いています。山下ふ頭検討委員会は、これから地元の関係団体が入り、具体的な議論になっていきそうですが。その前に、市民として、横浜市の問題点が、たくさんあります。ちょっと待ってください。</p>